研 究 論 文

福井県内大学在籍者における出身地の違いとキャリア意識・心理的要因の関連

Associations of Place-of-Origin Differences with Career Awareness and Psychological Factors among Students Enrolled in Universities in Fukui Prefecture

森本　康太郎*

Ⅰ．問題と目的
Ⅱ．方法
Ⅲ．結果
Ⅳ．考察

本研究は，福井県内大学に在籍する学生303名を対象に，福井県出身者と県外出身者のあいだで，キャリア意識および心理的要因の差異を探索的に検討した．キャリア意識（キャリアアクション・キャリアビジョン），パーソナリティ（ビッグファイブ），大学生活充実感，計画的偶発性，イラショナルキャリアビリーフを測定し，Welchのt検定によって群間比較を行った．その結果，キャリアビジョンにおいて有意差が認められ，県外出身者の方が将来の方向性や見通しの明確さにおいて高い傾向を示した．他方で，キャリアアクション，パーソナリティ，大学生活充実感，計画的偶発性，イラショナルキャリアビリーフには有意差がみられず，学生の出身地自体が心理的特性全般を規定するものではないことが示唆された．これらより，学生のキャリア形成や地元定着に関する理解を深めるうえでは，地域移動の経験や移動志向の違いも含めた検討が必要であろう．

キーワード：地域移動，キャリア意識，地方大学，キャリア支援

＊　京都産業大学文化学部

Ⅰ．問題と目的

我が国の地方における人口減少と若年層の流出は，地域社会の持続可能性に関わる重要な課題である．とりわけ，大学進学を契機とする地域移動は，その後の居住地選択や勤務希望地の形成と密接に結びついており，地方出身学生の移動経験とキャリア形成との関係を明らかにすることは，地域定着政策および大学におけるキャリア支援の両面から重要な意義を有するといえる．

こうした問題意識のもと，これまで福井県出身大学生を対象として，地域移動パターン，勤務希望地，地元志向，およびキャリア意識の関連について検討が行われてきた．具体的には，森本（2025）では，福井県出身大学生の在籍大学所在地や勤務希望地の違いに着目し，地域移動経験を伴う群の方が，地元にとどまる群よりもキャリア意識が高い可能性を報告した．さらに森本（2026）では，福井県出身大学生の地域移動パターンを類型化し，地域移動経験や勤務希望地の違いが地元志向およびキャリア意識と関連することを示している．これらの知見は，地元を離れる経験やその後の進路選択の方向性が，キャリア形成における心理的側面と一定の関係を有する可能性を示唆するものである．

しかし，上記の検討は主として福井県出身者における地域移動パターンの差異に焦点を当てたものであるため，同じ福井県内の大学に在籍する学生について，福井県出身者と県外出身者とでキャリア意識や心理的特性にどのような違いがみられるかという点は十分に検討されていない．福井県内の大学には，福井県出身者だけでなく県外出身者も在籍しており，両者は同一の大学・地域環境のもとで学んでいる．一方で，両者は進学時の地域移動経験の有無や進学先選択の文脈において異なる背景を有していることが考えられる．そのため，同じ福井県内大学在籍者であっても，出身地の違いがキャリア意識や心理的要因にどの程度関係するのかを検討することには，探索的ではあるが一定の意義があると考えられる．

そこで本研究では，福井県内の一大学に在籍する学生を対象として，福井県出身者と県外出身者のあいだで，キャリア意識および心理的要因にどのような差異がみられるかを探索的に検討することを目的とする．具体的には，キャリア意識に加えて，パーソナリティ特性，計画的偶発性，大学生活充実感，イラショナルキャリアビリーフといった心理的要因を取り上げ，出身地による差異の有無を確認する．これにより，福井県内大学在籍者における出身地差の実態を基礎的に把握するとともに，これまで検討されてきた福井県出身者の地域移動パターン研究を補足する知見を得ることを目指す．あわせて，地方大学における地域人材形成やキャリア支援のあり方を検討するための基礎資料を提供することを意図する．

Ⅱ．方法

1．調査手続

Web調査により回答を求めた．調査協力は機縁法による当該大学の教員を通じた依頼によって実施した．参加者は調査開始時に教示文を読み，匿名性が保障されること，回答

が任意であること，協力しないことによる不利益が一切ないことを確認したうえで同意し，回答を行った．本調査は福井県立大学「人を対象とする研究等における人権擁護・倫理委員会」による承認を受けている（承認番号S2025005）．

2. 分析対象者

分析対象は福井県内に所在する4年制大学1校に在籍する303名（男性136名，女性162名，その他5名，平均年齢18.89歳，*SD* = 1.20）であった．学年内訳は1年生117名，2年生92名，3年生74名，4年生20名であった．

出身内訳は，福井県内の高校を卒業した「福井県出身者」174名と，福井県外の高校を卒業後に福井県内の大学に進学した「福井県外出身者」129名であった．

福井県外出身者の地域分布は，北海道・東北5名，関東3名，甲信越14名，福井県除く北陸59名，東海26名，関西13名，中国・四国2名，九州・沖縄1名，海外6名．調査時期は2025年12月下旬から2026年2月中旬であった．

3. 調査項目

(1) キャリア・アクション・ビジョン・テスト（CAVT; 下村他，2009）

大学生のキャリア発達において重要とされる事柄について測定する尺度である．将来に向けて，どのくらい熱心に積極的に行動を行っているかを表す「キャリアアクション」，将来に向けたビジョンや夢，やりたいことなどをどのくらい明確にしているか，またそれに向けて準備をしているかを表す「キャリアビジョン」の2下位尺度で構成される．

(2) 日本語版Ten Item Personality Inventory（TIPI-J; 小塩他，2012）

Gosling et al.（2003）が作成したTen Item Personality Inventory（TIPI）の日本語版である．パーソナリティを5つの基本的特性から捉える枠組みであるビッグファイブの各次元を，正負2項目，合計10項目で測定する尺度である．

(3) 大学生活充実感尺度（SoULS-12; 佐久田他，2023）

現在の日本における一般的な大学生の大学生活充実度を測定する尺度である．大学における周囲の人々との居心地よい関係への満足度を表す「交友満足」，大学における学びへの満足感を表す「学業満足」，大学生活における将来への展望・見通しに関する不安のなさを表す「不安のなさ」，大学で過ごすことの意義や目的意識を高めるような取り組みの手応えを表す「大学へのコミットメント」の4下位尺度で構成される．

(4) 大学での学びにおける計画的偶発性尺度（西川・楠見，2025）

大学での学び場面における計画的偶発性の5つの心構え・スキルを測定する尺度である．Mitchell et al.（1999）で示された5つのスキルや，浦上他（2017）や楠見・西川（2019）で設定されているのと同様に，「柔軟性」「忍耐力」「挑戦性」「楽観性」「好奇心」の下位尺度で構成される．

(5) 学生用イラショナルキャリアビリーフ尺度（森本，2023）

学生の就職や就職活動，進路選択の妨げとなる不合理な信念や思い込み（イラショナル

キャリアビリーフ）を測定する尺度である．確たる根拠はないが最終的には就職活動で成功を収めることができるだろう，という思い込みを表す「非現実的な楽観」，自分に自信がなく，自己を過小評価し，自分には能力がないと感じ，進路就職の実現の悲観的な捉え方を表す「自信不足・自己過小評価」，価値のある人間として評価されるためには対外的な評価の高い就職をしなければならないという思い込みを表す「社会的評価へのとらわれ」，自分の能力を発揮し，やりたいことをできる職業に就くことや，就職活動を完璧に準備して進めたいという思い込みを表す「理想追求の就職観」の4下位尺度で構成される．

Ⅲ．結果

使用した各尺度の基礎統計量，同一尺度内の項目が同じ特徴を一貫して測定している程度（内的整合性）を示すCronbachのα係数およびMcDonaldのω係数を算出した（表1）．各尺度の信頼性については，大学での学びにおける計画的偶発性尺度の挑戦性がやや低い値を示した以外は，全体として内的整合性としての信頼性が確保されていることが示された．なお，TIPI-Jは各次元が正負2項目で構成されていることから，信頼性係数は算出しなかった．TIPI-Jについては，小塩他（2012）により，他の既存のパーソナリティ尺度との

表1　各尺度の記述統計量，信頼性係数

	M	*SD*	α	ω
キャリア意識				
キャリアアクション	18.22	5.19	.840	.845
キャリアビジョン	17.20	5.64	.898	.900
ビッグファイブ				
外向性	7.02	3.04	—	—
協調性	10.49	2.25	—	—
勤勉性	6.30	2.75	—	—
神経症傾向	9.61	2.39	—	—
開放性	7.82	2.80	—	—
大学生活充実感				
交友満足	11.62	2.76	.873	.879
学業満足	10.55	2.45	.818	.830
不安のなさ	8.48	3.06	.792	.801
大学へのコミットメント	9.49	3.00	.873	.894
大学での学びにおける計画的偶発性				
柔軟性	9.58	2.95	.914	.915
忍耐力	9.39	2.87	.900	.903
挑戦性	10.71	2.23	.648	.660
楽観性	10.10	2.49	.846	.849
好奇心	10.58	2.46	.795	.797
イラショナルキャリアビリーフ				
非現実的な楽観	28.42	7.05	.884	.887
自信不足・自己過小評価	18.78	5.15	.797	.800
社会的評価へのとらわれ	18.75	4.15	.694	.709
理想追求の就職観	22.73	3.66	.717	.728

関連から同じ特性を適切に測定していることを示す併存的妥当性，および時間を空けて測定しても同様の結果が得られることを示す再検査信頼性を有することが示されている．また，各下位尺度の得点分布が正規分布とみなせるかを確認するため，分布の左右の偏りを示す歪度と，分布のとがり具合を示す尖度に基づくジャック＝ベラ検定を実施したところ，一部の下位尺度で正規性が棄却された．ただし，各群で一定の回答数が確保されており，t 検定は正規性からの逸脱に比較的頑健であることから，群間比較には等分散を仮定しないWelchの対応のないt検定を用いた（表2）．

その結果，キャリアビジョンは福井県外出身者の方が福井県出身者よりも有意に高かった（福井県内出身者: M = 2.77, SD = 0.96, 県外出身者: M = 3.00, SD = 0.90, Welch's t = -2.08, p < .05, d = -0.24）．一方，キャリアアクションには有意差は認められなかった（p > .05）．また，ビッグファイブ，大学生活充実感，計画的偶発性およびイラショナルキャリアビリーフの各下位尺度についても，検定の結果いずれも有意差は認められなかった（いずれもp > .05；表2）．

表2　各尺度の平均値の差の検定結果

	福井県内出身 (n = 174)			福井県外出身 (n = 129)				
	M	95% CI	*SD*	*M*	95% CI	*SD*	*t*	*d*
キャリアアクション	3.02	[2.88, 3.15]	0.90	3.07	[2.92, 3.21]	0.82	-0.60	-0.06
キャリアビジョン	2.77	[2.63, 2.92]	0.96	3.00	[2.84, 3.15]	0.90	-2.08*	-0.24
外向性	3.44	[3.21, 3.68]	1.56	3.61	[3.35, 3.86]	1.47	-0.92	-0.11
協調性	5.22	[5.05, 5.38]	1.11	5.28	[5.09, 5.48]	1.14	-0.52	-0.06
勤勉性	3.13	[2.93, 3.33]	1.35	3.17	[2.93, 3.42]	1.41	-0.26	-0.03
神経症傾向	4.70	[4.51, 4.89]	1.28	4.94	[4.76, 5.13]	1.06	-1.79	-0.20
開放性	3.89	[3.69, 4.10]	1.43	3.94	[3.70, 4.18]	1.37	-0.29	-0.03
交友満足	3.85	[3.71, 3.99]	0.93	3.90	[3.74, 4.06]	0.92	-0.44	-0.05
学業満足	3.53	[3.40, 3.66]	0.87	3.50	[3.37, 3.63]	0.75	0.37	0.04
不安のなさ	2.82	[2.68, 2.97]	0.99	2.84	[2.65, 3.02]	1.07	-0.11	-0.01
大学へのコミットメント	3.11	[2.95, 3.26]	1.04	3.24	[3.08, 3.41]	0.94	-1.20	-0.14
柔軟性	3.19	[3.04, 3.34]	0.98	3.20	[3.03, 3.37]	1.00	-0.08	-0.01
忍耐力	3.13	[2.98, 3.27]	0.99	3.14	[2.98, 3.30]	0.92	-0.10	-0.01
挑戦性	3.58	[3.46, 3.69]	0.75	3.56	[3.44, 3.69]	0.73	0.16	0.02
楽観性	3.39	[3.26, 3.52]	0.86	3.33	[3.20, 3.47]	0.79	0.58	0.07
好奇心	3.48	[3.35, 3.61]	0.85	3.59	[3.45, 3.72]	0.78	-1.12	-0.13
非現実的な楽観	3.60	[3.48, 3.73]	0.84	3.48	[3.32, 3.64]	0.93	1.16	0.14
自信不足・自己過小評価	3.12	[3.00, 3.24]	0.81	3.14	[2.98, 3.30]	0.92	-0.20	-0.02
社会的評価へのとらわれ	3.76	[3.64, 3.89]	0.82	3.73	[3.58, 3.88]	0.84	0.35	0.04
理想追求の就職観	4.54	[4.42, 4.65]	0.76	4.56	[4.44, 4.68]	0.70	-0.25	-0.03

*p < .05
注）M は平均値，95% CIは平均値の95%信頼区間，SD は標準偏差，t はWelchの対応のないt 検定における検定統計量，d は2群間の差の大きさを標準化して示す効果量を表す．

Ⅳ．考察

本研究では，福井県内の一大学に在籍する学生を対象として，福井県出身者と県外出身者のあいだで，キャリア意識および心理的要因の差異を探索的に検討した．その結果，福井県内大学在籍者における福井県出身者と県外出身者の差異は全般的には限定的であり，キャリアビジョンにおいてのみ，県外出身者が福井県出身者よりもやや高いことが示された．

この結果は，これまで福井県出身大学生を対象として示されてきた知見と照らして理解することができる．森本（2025）では，福井県出身大学生について，在籍大学所在地や勤務希望地の違いに着目した検討の結果，地元を離れる進学・移動経験をもつ群の方が，地元にとどまる群よりもキャリア意識が高い可能性が示された．また，森本（2026）では，福井県出身大学生の地域移動パターンを類型化したうえで，地域移動経験や勤務希望地の違いが，地元志向およびキャリア意識と関連することが示されている．これらの知見は，地元を離れる経験や，その後の進路選択をめぐる地域移動パターンが，キャリア意識の形成と一定の関係を有することを示唆するものであった．

これに対して本研究では，同じ福井県内の一大学に在籍する学生同士を，福井県出身者と県外出身者という出身地の違いによって比較した．その結果，キャリアビジョンにのみ差が認められ，県外出身者の方がやや高かった．この結果は，県外出身者が福井県内大学に進学する時点で，すでに「地元を離れて進学する」という地域移動経験を伴っている点と関係している可能性がある．すなわち，地元外の大学や地域を進学先として検討し，居住地の移動を伴う選択を行う過程では，大学での学びや生活だけでなく，卒業後の進路についても考える機会が生じる．このような意思決定の経験が，自身の将来像や目標の明確さを表すキャリアビジョンと関連していることが考えられる．

ただし，本研究は横断的調査であるため，地元外への進学経験を通じてキャリアビジョンが形成されたのか，あるいは，もともと将来像や進学目的が比較的明確な学生ほど地元外への進学を選択したのかを区別することはできない．したがって，本研究の結果は，地域移動経験がキャリアビジョンを高めることを直接示すものではなく，地元外への進学という選択と将来像の明確さとのあいだに，限定的な関連が存在する可能性を示したものと解釈する必要がある．この点で，本研究の結果は，森本（2025, 2026）で報告された，地元を離れる経験をもつ群の方がキャリア意識の一部側面で高い傾向を示すという知見と整合的であるといえよう．

もっとも，本研究で有意差が認められたのはCAVTのうちキャリアビジョンのみであり，キャリアアクションには差が認められなかった．このことは，県外出身者の方が将来の方向性や見通しをやや明確に持っている可能性はあるものの，それが直ちにキャリア形成行動全般の活発さにまで結びついているわけではないことを示している．すなわち，地域移動を伴う進学選択は，将来の方向性を考えることとは関連しうる一方で，その方向性を具体的な行動に移すこととは別の側面である可能性がある．また，キャリアビジョンに

おける効果量が小さかったことからも，出身地の違いがキャリア意識を大きく分ける要因であるとまでは言えない．したがって，今回の結果は，県外出身者の方が全般的に高いキャリア意識を有するというよりも，将来像の明確さに関して限定的な差が認められたものと慎重に解釈すべきであろう．

さらに，ビッグファイブ，計画的偶発性，大学生活充実感，イラショナルキャリアビリーフには有意差が認められなかったことも重要である．この結果から，福井県出身者と県外出身者のあいだに，パーソナリティ特性，大学生活への適応，偶然の機会を活用する態度，キャリアに関する思い込みといった心理的特徴全般に明確な差があるとはいえない．したがって，キャリアビジョンに認められた差を，県外出身者の心理的特性の違いによって説明することは困難である．

両群の学生が同一の大学・地域環境のもとで学んでいることが，心理的特徴や大学生活充実感に共通性をもたらしている可能性も考えられる．ただし，本研究では大学環境の影響を直接検討していないため，この点については今後の検討が必要である．少なくとも本研究の結果は，県内出身・県外出身という属性の違いだけでは，学生の心理的特徴やキャリア意識を十分に捉えられない可能性を示している．

むしろ，学生のキャリア意識との関連を検討する際には，出身地そのものだけでなく，実際にどのような経緯で進学先を選択したのか，地域移動が本人にとってどのような経験であったのか，卒業後にどの地域で働くことを希望しているのかといった，地域移動の過程や将来の地域選択を捉える必要があると考えられる．同じ県外出身者であっても，明確な進学目的をもって福井県内の大学を選択した者と，入試結果や周囲からの勧めなどによって進学した者とでは，移動経験の意味や将来展望が異なる可能性がある．また，同じ福井県出身者であっても，卒業後の県内就職を希望する者と県外就職を希望する者とでは，キャリア意識のあり方が異なる可能性もあるだろう．

こうした点を踏まえると，地方大学におけるキャリア支援では，学生を県内出身者と県外出身者という属性のみで区分するのではなく，進学先を選択した経緯や，地域移動経験の意味，勤務希望地，将来展望などを個別に把握することが重要であると考えられる．また，キャリアビジョンがある程度明確であっても，それがキャリアアクションに結びついているとは限らないことから，学生が描いている将来像と，情報収集や職業理解，具体的な進路準備の行動を結びつける支援も必要であろう．

以上より，本研究の結果は，福井県内の一大学に在籍する学生における出身地差が，心理的要因全般については限定的であることを示す一方で，進学時に地元を離れる経験をもつ学生は，将来像の明確さという側面において異なる特徴を持ちうることを示唆している．そしてこのことは，森本（2025, 2026）で示された，福井県出身者の地域移動経験とキャリア意識との関連を，別の角度から補足する知見として位置づけることができよう．同時に，地域移動とキャリア形成との関連を理解するためには，出身地という属性だけでなく，移動に至る意思決定の過程や，卒業後の地域選択を含めて検討する必要があること

を示す基礎的知見であると考えられる．

本研究にはいくつかの限界がある．第一に，本研究は横断的調査に基づく探索的検討であり，出身地とキャリア意識・心理的要因との関連について因果関係を結論づけることはできない．第二に，本研究の対象者は福井県内の一大学に在籍する学生に限定されており，大学の設置形態や学生構成等の固有の特徴が結果に影響している可能性がある．そのため，得られた知見を福井県内の大学生全体に一般化することには慎重である必要がある．第三に，学生のキャリア意識や心理的特徴には，出身地そのものだけでなく，実際の地域移動経験や勤務希望地，進学先選択の経緯など，複数の要因が関与している可能性がある．今後は，これらの変数を含めた検討を行うとともに，福井県出身者の地域移動パターン研究との接続をより明確にしながら，地方大学在籍者のキャリア形成を規定する要因を多面的に明らかにしていくことが課題である．そうした知見の蓄積は，福井県における若年層の地域定着や地域人材形成を考えるうえでも，一定の基礎資料となることが期待される．

【参考文献】

浦上昌則・高綱睦美・杉本英晴・矢崎裕美子（2017）「Planned Happenstance　理論を背景とした境遇活用スキルの測定」『南山大学紀要アカデミア（人文・自然科学編）』Vol.14, pp.49-64.

小塩真司・阿部晋吾・カトローニ ピノ（2012）「日本語版Ten Item Personality Inventory（TIPI－J）作成の試み」『パーソナリティ研究』Vol.21, pp.40-52.

楠見 孝・西川一二（2019）「キャリア発達における計画的偶発性―会社員，教員，看護師の比較調査―」『産業・組織心理学会第35回大会発表論文集』pp. 99-102.

佐久田祐子・奥田 亮・川上正浩・坂田浩之（2023）「大学生活充実度尺度（SoULS-12）の開発」*Journal of Health Psychology Research, 35*（2）, pp.147-154.

下村英雄・八幡成美・梅崎 修・田澤 実（2009）「大学生のキャリアガイダンスの効果測定用テストの開発」『キャリアデザイン研究』Vol.5, pp.127-139.

西川一二・楠見 孝（2025）「大学での学びにおける計画的偶発性尺度の開発」『日本心理学会第89回大会発表論文集』3A059PP.

森本康太郎（2023）「学生用イラショナルキャリアビリーフ尺度作成の試み」『応用心理学研究』Vol.48, No.3, pp.168-178.

森本康太郎（2025）「地元志向からみた福井県内大学生のキャリア意識：予備的検討」『地域公共政策研究』Vol.35, pp.43-48.

森本康太郎（2026）「福井県出身大学生の地域移動パターンと勤務希望地，地元志向，キャリア意識の関連」『地域公共政策研究』Vol.36, pp 未定．

Gosling, S. D., Rentfrow, P. J., & Swann, W. B., Jr.（2003）. A very brief measure of the Big-Five personality domains. *Journal of Research in Personality, 37*（6）, 504-528.

Mitchell, K. E., Levin, A. S., & Krumboltz, J. D.（1999）. Planned happenstance: Constructing unexpected career opportunities. *Journal of Counseling and Development, 77*（2）, 115-124.